

子育て応援ブック 1

～ きこえにくいってどんなこと? ～



埼玉県聴覚障害児支援センター

『子育て応援ブック1～きこえにくいってどんなこと?～』

目次

1	これからの子育てを応援します!	2
2	きこえにくいってどんなこと?	3
3	ことばやコミュニケーションは どうやって育てるの?	7
4	ご家族の手記	10
5	埼玉県の療育・教育施設	15
6	Q & A	16

❀ この小冊子のこと ❀

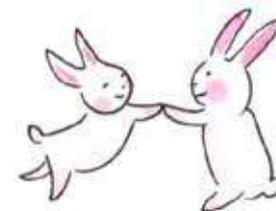
この「子育て応援ブック1」には、「きこえにくい」とはどういうことかを知るために大切なことが書いてあります。

まず、手に取って、少しずつ読み進めてみてください。

そして、さらに詳しい情報につきましては、「子育て応援ブック2」をご覧くださいませと幸いです。「ブック2」は、20ページにあります相談窓口のQRコードを読み込むとそこからダウンロードしていただくことができます。

この小冊子が、少しでもあなたとお子さんのお力になれますよう、心より願っております。

埼玉県聴覚障害児支援センター



1

これからの
子育てを
応援します！

この小冊子を手にとってくださったみなさまへ
これからの子育てを応援します。

子育てを前に、お子さんがきこえにくいと言われて、色々な心配や不安を持たれている親御さんもいらっしゃるかもしれません。

この小冊子は、親御さんのさまざまな疑問

- きこえにくいってどんなこと？
- きこえにくいとどんな影響があるの？
- どうすればいいの？



などにお答えし、安心して育児ができることを願って作られました。

お子さんの健やかな成長にとって一番大切なことは、

- 親御さんが笑顔でお子さんとの時間を楽しむこと。
- お子さんとしっかりと通じ合うこと。
- 丁寧に子育てをすること。

です。そのためには、毎日の子育てに助言してくれる人、応援してくれる人たちがいると心強いですね。

○ できるだけ周りの人に支えてもらいましょう。

きこえについて、専門的な助言を受けられる療育施設などつながりましょう。一人ひとりのお子さんに合った療育が受けられます。

○ たくさんのサポートがあるから、
きっと大丈夫。



2

きこえにくいって
どんな
こと？

きこえにくいってどんなこと？

音はきこえていても、小さく歪んだ音だったり、高い音がきき取りにくかったり、音がほとんどきこえなかったりと様々です。

きこえの程度や、難聴の種類によってきこえ方が異なります。



赤ちゃんがきこえにくいとどうなるの？

ことばを習得する前の赤ちゃんに、きこえにくさがあると、ことばやコミュニケーションの育ちに影響します。

でも、早い時期から様々な対応や配慮をすれば、豊かなことばやコミュニケーションを育むことができます。



補聴器や人工内耳をすればきこえるようになるの？

補聴器や人工内耳は、きこえを改善することができますが、きこえにくさをすべて解消することはできません。また、装用するだけでなく、生活の中できこえを活用するような働きかけが必要です。

補聴効果については、個人差がありますので、一人一人に合ったコミュニケーションへの配慮が必要です。



きこえの程度によってどう違う？

きこえの程度についてご説明します。数字は平均聴力レベルです。個人差も大きいので、大まかな傾向として読んでください。

◎ きこえの程度による大まかな傾向をみてみましょう。

<p>軽度難聴</p> <p>25dB以上 40dB未満</p>	<p>一見、難聴があるようには見えませんが、裸耳（補聴器を装用していない耳）では、小声や雑音下での会話のききまちがいやききもらしがあります。</p> <p>言語習得途上、学習途上の子どもでは補聴器装用や定期的な指導について検討する必要があります。</p>
<p>中等度難聴</p> <p>40dB以上 70dB未満</p>	<p>補聴器の効果が大きく、早期療育によりコミュニケーションやことばの発達は比較的スムーズです。しかし、補聴器装用下でも、場面によってききもらしがあることに注意しましょう。</p> <p>発音の明瞭さだけで判断せず、療育はしっかり受けましょう。きこえるお友だちの集団に参加する場合には、周りの理解を得る働きかけも必要です。</p>
<p>高度難聴</p> <p>70dB以上 90dB未満</p>	<p>補聴器の効果が大きいですが、個人差があります。1対1の丁寧なコミュニケーションが大切です。正確なやりとりのためには、読話（口の形を読む）、手話、文字などが必要です。</p>
<p>重度難聴</p> <p>90dB以上</p>	<p>補聴器の効果はある程度ありますが、視覚的な情報が大切になります。</p> <p>手話、読話、文字などの活用が必要です。人工内耳の適応聴力です。</p>

※ 数字は平均聴力レベルです。日本聴覚医学会が示す難聴の程度分類によるものです。他にも色々な区分の仕方があります。

デシベル（dB）という単位がぴんときません。



大体の目安ですが、ささやき声が30dBくらい、普通の会話が60dBくらい、大きめの声が70dBくらいです。

療育ってなに？

療育は、お子さんが必要とする「配慮」のある子育てや支援のことです。どう配慮するかは、お子さんのきこえや個性に合わせて療育の中で親御さんが学んでいく必要があります。

療育先では、言語聴覚士やろう学校教員などが親身に対応してくれるだけでなく、励まし合える親御さんの仲間とも出会えるでしょう。子育ての悩みを話し合うことで、元気に前向きになれる親御さんはたくさんいらっしゃいます。お子さんにとっても、大きくなって連絡を取り合える仲間と出会える大切な場となるでしょう。

親御さんのなかには、お仕事と療育の両立に悩まれる方もいらっしゃると思いますが、どんな方法がよいかについても、療育担当者などと相談しながら決めていきましょう。

療育施設では、療育担当がお子さんとのコミュニケーションの取り方のモデルを示してくれます。



3

ことばやコミュニケーション

は

どうやって育てるの？

はじめの育児は、特別なものでなくてもよいのです

赤ちゃんは、「きく」だけでなく、「みる」、「おいしいと感じる」、「ねむいと感じる」、「きもちいいと感じる」、など様々な感覚で生きています。そして、「泣く」とか「ぐずる」ということで様々なことを訴えてきます。



そこに応えてあげることで、親子の信頼関係や愛着関係ができていきます。



赤ちゃんは、自分の要求にこたえてくれる存在を全身で感じ取り、安心し、信頼し、愛着を感じるようになるでしょう。もちろん親御さんもそんな赤ちゃんとの絆ができてゆくのを感ずることでしょう。

- ☆ 赤ちゃんの伝えたいことを受け止めてあげましょう。
- ☆ 抱っこしたり、ほおずりしたり、かわいいと思う気持ちを伝えましょう。
- ☆ 目を見て表情豊かに働きかけましょう。



同じものを見て共感する関係ができてきたら



見つめ合う1対1の関係だけではなく、同じものを見て共感する三角形の関係（三項関係）ができてきたら、働きかけ方に、少し工夫をしましょう。

例えば、次の図を見てください。親子で犬を見ています。

こんな時、後ろから話しかけるのではなく、**お子さんが犬と親御さんを両方見る**ことができるようにしましょう。そして、音声、手話、身振りをわかりやすく示すとよいでしょう。

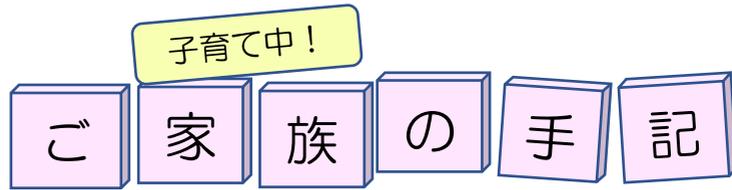
お子さんは、親御さんと犬を見くらべて、親御さんが表現しているものがこの動物だということを理解していきます。多くのことばの理解は、このような三角形の関係の中で形成されます。



- ☆ お子さんにお母さんと犬が両方見えるように
- ☆ 音声、手話、身振りを使って
- ☆ 表情豊かに



4



『家族みんなで』 11か月児（高度難聴）のお母さん

「お子さんの耳がきこえていないかもしれません」そう告げられたのは、産まれてすぐのスクリーニング検査でした。初めのうちは、耳にごみが溜まっているのかも… まだまだ新生児さんだからはっきりとはわからないけど、と産院の看護師さんが何度も励ましてくれました。

でも2回、3回と検査をしてもリファア。退院後また産院で検査をして、医療機関を紹介されました。息子は耳がきこえないんだ。頭が真っ白になりました。産院を出て、車で待っている主人の顔が見えた瞬間、涙が溢れました。やっぱり耳きこえてないみたい… そう伝えると「大丈夫、この子は、私たちを選んで産まれてきてくれたんだよ。『ここならきっと大切に育ててくれる、大丈夫だ』って」そう言ってくれました。

1週間ほどは、自分を責めて泣いてばかりいました。でも、泣いてばかりはられない、前を向かなきゃと少しずつ考え方が変わりました。私たちの見たことない世界を見せてくれる。色々な出会いがある。息子の見ている世界を一緒に楽しもう！と思えるようになりました。

療育施設に通い始めて半年。先生方はとても明るく親身になってくれるので心強いです。親子共々、たくさんの刺激を受け、楽しく通えています。補聴器も取ってしまうことが多かったのですが、今では長く付けられるようになってきました。音がきこえない＝音楽、歌うこと、話すことを楽しめないのかな、と思っていました、そうでないことを療育施設に通うお友だち、お母さん方に出会えて知りました。

4年生のお姉ちゃんは、弟にメロメロ、手話など勉強しています。3歳のお姉ちゃんは、弟の耳のことを理解してきて、「補聴器とれてるー！」と教えてくれるようになりました。これから人工内耳をどうするかについても考えていきますし、不安はまだありますが、息子の成長を楽しみに家族みんなで乗り越えていこうと思います。

『これまでを振り返って』 2歳9か月児（中等度難聴）のお母さん

新生児聴覚スクリーニングを受けてから、生後1か月で医療機関を受診し、言語聴覚士の定期的指導を経て、1歳から療育施設に通いました。

0歳の時は、補聴器を1日2～3時間しか付けていなかったり、1歳児クラスの時、療育施設に到着してから付けることもしばしば。特に夏には汗をかくせいか、補聴器を嫌がったり、自分ではずしてしまったりすることが増えました。

しかし、つい先日、息子の方から「ママ オミミ ツケテヨ～」とやってきたのです。子どもの成長と補聴器の必要性を改めて感じさせられるできごとでした。最近では、息子の耳に補聴器が付いていることが徐々に自然に受け入れられるようになってきたように思います。

まだ発音は不明瞭ながらも、おしゃべりになった息子をみていると、難聴の早期発見、早期療育の大切さを実感し、それを受けられたことに感謝しています。初めて難聴がわかった時は、生後間もない我が子を前に何をしてもよいかかわからず、きこえているのかいないのかもわからず、毎日ただ泣いて過ごしました。看護師さんや保健師さんに「普通の子育てをしてください、たくさん話かけてください」と言っていたのですが、初めて子育てする私は「普通の子育てって？」と戸惑い、不安な日々を過ごしました。

でも、今では、本当に早くから療育を受けられたことを良かったと思う毎日です。初めて療育施設を見学した時、そこで遊んでいる子どもたちが

「なんて明るく元気なの？」と思ったことを思い出します。私も通い始めてから、毎回元気と勇気をもらっています。子どもたちから、お母さん方から、先生方から多くのことを教わっています。



『息子と手話』

4歳児（重度難聴）のお母さん

息子は今、ろう学園幼稚部の2年生です。両耳とも重度難聴があり、生後5か月からお世話になっている学校で、先生やお友達と手話で話しながら楽しそうに過ごしています。

新生児スクリーニング検査の後、精密聴力検査を受け、病院で、重度難聴と告げられました。説明を聞きながら想像していなかった結果に、その後の話は耳に入らず、診察室を出てから泣いたことを覚えています。

難聴がわかった時、息子をどうやって育てていけばよいか不安でいっぱいでしたが、療育を受けられたことで子どもの耳の障害を少しずつ受け入れられるようになっていきました。

一番悩んだことは人工内耳のことでした。当初、主治医からは息子の聴神経は通常より細くて少ないため、一般的に人工内耳の効果があまりないと聞いていました。言葉が話せるようになってほしいと思う一方で、効果がなかった場合、息子のその後についてやりスクなどを考えるとすぐに答えが出せずに悩みました。

最終的に私と主人はこのまま補聴器を使う選択をしました。その決断ができたのは、学校に通いながら、手話があればコミュニケーションがとれることを学んできたからだと思います。

幼稚部に通ってからの息子は、毎日の学校生活の中で驚くほど手話を覚えていきました。息子の伝えようとする手話が分からなくて困る時もあり

ますが、一緒にいろいろな話ができるようになって喜びを感じています。

この先息子は成長するにつれ、今のように手話で通じる喜びや楽しさを知るだけでなく、悩んだり手話を使う自分と向き合うようになるかもしれません。そのような時、息子の気持ちに寄り添い、時には周りの方の力を借りながら歩いていけたらと思います。

『笑いにあふれる毎日』

5歳児（高度難聴）のお母さん

息子が2歳半過ぎに判明した「高度難聴」。息子の耳には、大きい音以外のほとんどの音は届いていなかったのです。「すぐに療育を始めてください」そう告げられ、頭の中がぐるぐると回り出しました。「どうして？いつから？なぜ？これからどうなるの？」

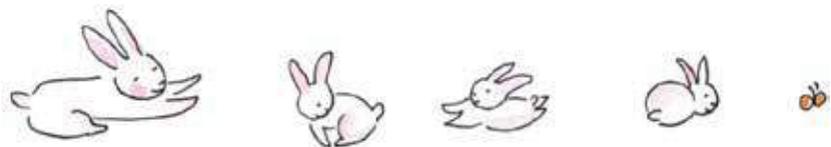
本を何冊も読みあさり、その度に、嫌と言うほど目につく「早期発見、早期療育」の文字。もうすぐ3歳を迎えようとしている息子に私は、何をしてきたのだろうか。

そのころの私は、仕事も充実していて、家事も育児もそれなりに両立できているつもりでいました。でも息子の難聴発見が遅れたことにより、親としての未熟さ、至らなさと言置かれている事の重大さに胸が引き裂かれる思いでした。

「焦らず、怠らず、積み重ねていくことが大事」と療育の先生に励まされながらも、初めの頃は、息子が習得しなければならぬことの多さに、混乱し、不安と焦りを感じていました。

しかし、納得しなければ前に進めない息子との付き合いに悪戦苦闘しながらも、療育の中で、色々な経験を親子で共有しているうちに、私自身が子どもとの毎日の生活を楽しむようになってきました。「難聴」を抜きにした、純粋な子どもの目、思い、そして成長につながる変化に、子育てってなんて面白いのだろうと心から思えるようになっていったのです。今では、難聴の息子がいる生活が当たり前になり、笑いの絶えない毎日に新鮮さを

感じています。家族に支えられ、仲間や先生方に見守られ、多くの方々に助けてもらって、私も強くなりました。多くの可能性を秘める子どもと共に私も成長していきたいと思います。



大人になった私たちは今 * * *

療育施設で出会った友だちは、成長してからも、お互いに連絡を取り合ったり、相談にのったりしています。大切な仲間です。



療育施設の思い出の一コマ 5歳児劇ごっこ

埼玉県の

5

療育

・ 教育

施設

埼玉県には、以下の6か所の療育・教育施設があります。

それぞれの施設によって、指導方法などに特徴があります。

療育先を決めるには、電話などで問い合わせたり、実際に見学に行くなどして、十分に説明をきき、また、お子さんの様子を見てもらい、十分に検討しましょう。

◎ 療育施設

- ・ 埼玉県社会福祉事業団 そうか光生園 (草加市)
- ・ 埼玉県社会福祉事業団 皆光園 (深谷市)
- ・ エント上福岡事業所・ことばの学び舎エント
児童発達支援・放課後等デイサービス (ふじみ野市)
- ・ さいたま市総合療育センターひまわり学園
児童発達支援センターわかば (さいたま市)

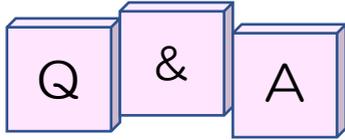
◎ 教育施設

- ・ 埼玉県立特別支援学校 大宮ろう学園 (さいたま市)
- ・ 埼玉県立特別支援学校 坂戸ろう学園 (坂戸市)

*主として聴覚障害児・者が通う特別支援学校を表す際に「ろう(聾)学校」という通称を用いることがあります。「ろう学園」は、埼玉県のろう学校の固有名称です。

*施設の詳しい情報については、ブック2をご覧ください。本冊子の20ページの当センターの相談窓口QRコードを読み取ってください。そこからダウンロードすることができます。

6

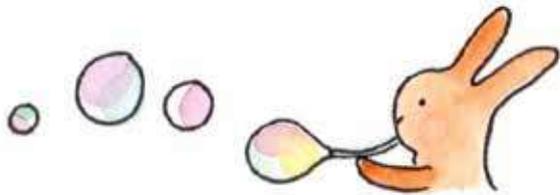


Q1 両親共に就労しています。初めての子に高度難聴があり、療育が必要と言われました。仕事と両立することは難しそうで悩んでいます。

A 昨今では、ご両親共にお仕事をされているご家庭が増えてきていますので、同じようなお悩みの方は、少なくないと思われます。ご家庭の様々な状況やお子さんの個々の状態に合わせて考えなければなりませんね。

お子さんに難聴がある場合、乳幼児期のお子さんのコミュニケーションパートナーの存在は、大変重要です。毎日色々な人がたくさん話しかけるというよりも、お子さんと生活を共にし、様々な経験を共にするキーパーソンとなる養育者が、心を通わせながら、お子さんとコミュニケーションを深めていくことが大切です。

しかし、ご両親のお仕事もご両親にとって、とても大切であることでしょう。お仕事の内容や形態によっても違ってくると思われます。まず、お子さんにどのようなことが必要で、何を大事にすべきか、そのためにどのような生活の形が必要かをじっくりと療育担当者等と相談しましょう。ご家族の協力体制も検討しましょう。ご実家などから得られる協力も確認しましょう。乳幼児期は永遠に続くわけではありません。必ず子どもたちは成長します。その成長の過程の中のかげがえのない乳幼児期を大事に考え、ご検討いただければと思います。



Q2 3人きょうだいのうち、一番下の息子に難聴があると言われました。まだ上の子ども年長と年中で手がかります。ちゃんと育てられるかが心配です。

A 3人のお子さんの子育てで、目まぐるしい毎日を過ごされていることとお察しします。その上で、3番目のお子さんの療育を考えなければならないことは、確かに大変なことですね。一番下のお子さんに、より手をかけなければならないということですが、上の2人のお子さんが不安にならないような配慮も必要ですね。親御さんの関心が一番下のお子さんに集中的に注がれることは、他のきょうだいを不安にすることも少なくないのです。「どの子ども大事よ」というまなざしがとても大事になります。

しかし、それには、親御さんのお気持ちや体力に余裕が必要です。わかっている、余裕がなく、イライラしてしまうことは、子育てでは、誰でもあることです。

親御さんを支えてくれる人はいらっしゃいますか？ご両親の協力体制は作れますか？または、療育担当者など相談に乗ってくれる人はいますか？ご実家はいかがでしょうか？お父さんが忙しくて、お母さんだけががんばるという状態になってはいないですか？必死にがんばるお母さんの表情は、少し硬いものになってしまうかもしれません。子どもは、親御さんの表情を見て、安心したり、不安になったりします。まずは、大人の協力体制を考えましょう。

また、大変なことばかりではありません。上のきょうだいがよいモデルやよい刺激になって助かることもあります。上のお子さんたちが親御さんの真似をして、難聴のある弟に丁寧にコミュニケーションを取ってくれることもあります。いつかは大変な時期もあると思いますが、きょうだいはやがて強力な味方になることも少なくないのです。大変な時を乗り切る作戦を練りましょう。同じようにがんばってきた先輩の話もきけるといいですね。

Q3 子どもが両耳 40dB の難聴と言われました。しかし、確かに音への反応もあり、受け入れられない気持ちです。補聴器を装用しなければなりませんか。

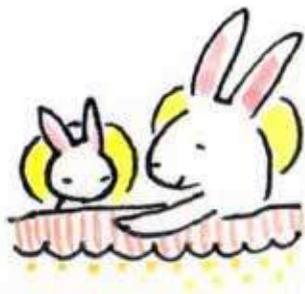
A 平均聴力レベル 25dB 未満はきこえは問題なしとされますが、25dB から 40dB 未満は軽度難聴とされています。軽度難聴は 1m 以内であれば普通の話声がききとれますし、面と向かって話す場合にはあまり問題が感じられないと思います。

しかし、軽度難聴でも、小さな声のまたは騒音下でのきき間違いや大勢いる場面での先生の話などのききもらしがあります。このことは、特に母語の基礎を習得する幼児期では、注意しなければなりません。

日常会話では問題は見えにくいのですが、十分な語彙を習得できなかったり、抽象的なことばの理解が遅れたりすることが多く見られます。いずれも十分に聴覚情報が得られなかったことによるものです。そしてそれが就学後の学習が始まってからはっきりした問題となる場合も少なくありません。

また、早期より補聴することで、お子さんも補聴器装用により、よりよくきこえることを学び、自分から補聴器を求めるようになることが多いのです。学齢になってから補聴器の装用を始める場合は、きこえにくいことが当たり前になっていたり、本人の心理的抵抗が芽生えたりして、補聴器装用が少し難しくなることが多いようです。

難聴の程度が軽いといえども、あなどらず、お子さんの大切な乳幼児期の発達を大切に考えて、検討されることをお勧めします。



この小冊子に引き続き、ブック2をぜひお読みください。
『子育て応援ブック2～もっと知ろう きこえのこと～』

目次

- 1 きこえのしくみ
- 2 補聴器、人工内耳について
- 3 指導方法について
- 4 乳幼児期のことばの発達について
- 5 重複する障害のあるお子さんの育ちを支える
- 6 埼玉県の療育・教育施設
- 7 進路の道筋について
- 8 公的な助成制度について

参考資料 ①埼玉県の精密聴力検査機関 ②埼玉県の二次聴力検査機関
③埼玉県内外の関係機関

❀ 子育て応援ブック1、2について ❀

この小冊子は、埼玉県社会福祉事業団が埼玉県から受託して実施した聴覚障害児支援中核機能モデル事業において作成されました。モデル事業の連携会議委員等から執筆者を募り、執筆者会議を設け、原稿を分担しました。連携会議委員は、埼玉県の療育担当者や医療関係者、そして行政の担当者などです。そしてモデル事業の事務局で編集し、執筆者会議、連携会議、協議会を経て、完成にいたしました。

この小冊子の目的は、医療機関でお子さんがきこえにくいと言われたご家族が初めに手にとり、きこえにくいとはどういうことか、コミュニケーションやことばを育てる関わり方はどういうものか、将来はどのような見通しがあるかについて情報を得て、安心して子育てのスタートをきれるようにすることです。

この小冊子がたくさんの方に活用していただけますようお願いしております。
お子様の健やかな成長を祈念いたします。

令和5年3月

埼玉県聴覚障害児支援センター

埼玉県聴覚障害児支援センターは、お子さんのきこえについての様々な相談をお受けしています。

【 埼玉県聴覚障害児支援センター相談窓口 】

そうか光生園窓口 電話・FAX 048-936-5986
携帯電話 070-1272-6952
メールアドレス kikoe-kouseien@sswc-gr.jp



相談窓口



メールアドレス

皆光園窓口 電話・FAX 048-577-5503
メールアドレス kikoe-kaikouen@sswc-gr.jp



相談窓口



メールアドレス

- ★ 上記センター相談窓口のQRコードを読み取りますと、ブック1、ブック2をダウンロードできます。
- ★ ポータルサイトは、下記のQRコードからアクセスできます。皆様のお役に立つ情報を掲載しています。どうぞご利用ください。



ポータルサイト

装画・挿画 中井敦子

※装画・挿画の転載利用不可

